令和３年度
民間企業等
長期派遣型研修
成果報告書

令和４年10月
静岡県教育委員会

事　業　概　要

目　的	教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な技術、技能、システム並びに組織運営及び人材育成のノウハウ等を学ぶことにより、教員の授業力、生徒指導力、教育業務遂行力、組織運営力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資する。
対　象	・45歳以下で静岡県の教育職員としての職務経験が５年以上の者 ・小中学校、義務教育学校、高等学校の専門教科（農・工・商）、特別支援学校の教員等の中から選考
期　間 (人数)	小中学校、義務教育学校：６か月(２人)、12か月(１人) 高等学校：12か月(３人) 特別支援学校：６か月(２人)

目　次

◆研修の報告

所属（Ｒ３年度）	研修生	研修先	ページ
静岡県立田方農業高等学校	福島　徹也	土屋建設　株式会社	1
静岡県立浜松工業高等学校	小林　健太	NTTビジネスソリューションズ株式会社	4
静岡県立浜松商業高等学校	近藤　敬介	株式会社　エスパルス	7
静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校	稲葉　美穂	加和太建設　株式会社	10
静岡県立袋井特別支援学校	祝　一真	野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社　メガロス浜松市野	13
富士市立丘小学校	石田　和良	株式会社　静岡銀行	16
掛川市立東中学校	曽根　隆央	株式会社　Ｚ会	20
沼津市立門池中学校	知野　匡伸	はごろもフーズ　株式会社	23

◆企業御感想　27

◆民間企業等長期派遣型研修実施要綱　30

土屋建設　株式会社

研修期間：令和３年４月1日～令和４年３月31日
所属/氏名：静岡県立田方農業高等学校　教諭　福島　徹也

研修の内容

1　農業に関する研修（通年）

栽培管理業務（播種、定植、施肥、薬剤散布、除草）、収穫、調整、出荷、耕耘、資材管理、沢庵漬け

2　工務に関する研修

黄瀬川堤防工事、土肥災害復旧工事（２月下旬～３月上旬）、除雪・雪氷対策（12月～３月適時）

3　地域貢献に関する研修

大仁まごころ市場出荷運営連絡協議会、ＩＺＵＨＯ未来プロジェクト(公益財団法人 伊豆保健医療センター)、農業経営セミナーin東部(静岡県農業参入法人研究会、公益財団法人 静岡県農業振興公社)、伊豆の国市千代田区食材市 視察、献血事業、狩野川清掃ボランティア、アダプトロード活動

研修を終えて

1　はじめに

民間企業は、営利を目的としてモノを生産して商品化した後、販売やサービスを提供することで対価を得る。学校教育現場とは異なる環境に身を置くことができるため、２つの目標を設定した。１つ目は、他業種から農業生産へ参入した数少ない実践例に触れ、そこに至る理念を学びながら、特産物生産、地域内消費を推奨した多品目栽培について知識と技術を身に付け、生徒への実践的な指導力を向上させること、２つ目は、企業の組織運営について学び、より良い組織づくりについて考えること、とした。

2　研修先の概要

土屋建設株式会社は、創業昭和６年３月、創立昭和21年10月の伊豆の国市三福にある地域に根ざした建設業者である。暮らしを創る、災害から守る、地域経済を支える、３つの目標を掲げ、エッセンシャルカンパニーとしての役割を果たしている。また、平成23年４月より雇用継続と農村集落活性化を目指して伊豆の国市田中山地区で農業参入し、建設業と農林業の相性を模索しながら、地域振興を図っている。

3　研修を終えての感想

⑴　専門性の向上

まず驚いたのは、働いているアルバイトの方々のポイントを押さえた管理作業と作業の速さである。未経験で年配の方が多いため、事前ミーティングを行い、共通理解をすることが大切である。責任者として指示を出すには、管理作業の必要性やそれぞれの管理作業についての知識が重要である。理論を理解した上で現場の状況を観察し、適した時期に適した管理をする必要があると改めて感じた。これからも専門知識を学び続け、技術の向上に励み、生徒にその重要性を伝えていきたい。

⑵　仕事への使命感と働き方改革

令和４年１月６日(木)、普段雪の少ない太平洋側の地域で積雪があった。専務の陣頭指揮のもと、担当社員が一丸となり重機での除雪と凍結防止剤の散布が深夜および早朝に行われた。エッセンシャルワーカーとしての使命感のもと、一般車両の通行困難となった道路のいち早い開通、住民が利用するバスの路線の確保等が行われており、住民の暮らしを支える社会的に重要な仕事であることを実感した。この急な積雪や今年度発生した伊豆山地区の土砂災害、大雨による急な増水による黄瀬川橋の崩落について、災害が起きた時の緊急対応の速さが土屋建設のストロングポイントであり、過去に対応した圧倒的な経験値(件数)がその質を高めているのだと痛感した。近年、働き方改革、生産性の向上が求められているが、最初から効率の良い働き方などはなく、質を高めるためには限られた時間の中でもより多くを経験するしかないと考える。その経験値が、緊急時の対応の速さにつながり、そのための準備を含めた通常業務の見直しが仕事の効率化にもつながると思う。

⑶　次世代の産業を担う社員の育成（メンター制度）

豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員（メンター）が、後輩社員（メンティ）に対して行う個別支援活動（メンター制度）を実施していた。メンターに当たる40代社員６名の新卒採用以降、13年間新卒者採用ができない時期が続いたそうだ。近年、ようやく計画的な採用が進み18歳から20代前半の社員19名が勤務している。若者の早期離職が社会問題となっているがこの業界も例外ではない。そのためメンターがキャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を担い、若手人材の育成に力を入れ事業継承を試みていた。学校でも中堅者まで計画的に研修制度が組まれている。校内での取組も含め、意識的に取

り組むことでその効果は大きいと感じる。縦横斜めの関係を作り、若手教員の育成の一助になれるよう努めていきたい。

⑷　会議やプロジェクトについての考え方

伊豆保健医療センターを中心とした 健康度を高めた【まちづくり】「IZUHO 未来プロジェクト」の会議に出席させていただく機会を得た。その中で感じたことは次の３点である。① 所属を超えた横断的な取組には、問題解決のためのヒントがたくさんある。② 課題解決にマンパワーをかけるからにはそれに見合った成果が求められ、より実を結ぶように仕立てを創ることが必要である。（今回であれば、IZUHOと伊豆の国市役所と+αの３者ともに成果の上がる事業にする。）③ 短期目標、中期目標、長期目標を立て、すぐにできることから取組、プロジェクトが進行していることを発信し、輪を広げていく。これらのことから学校という組織の中で企画を推進する際にも、立場や世代が違う先生方と協力して取組、多角的なものの見方、考え方により意見に幅を出し、費用対効果が上がるような教育活動を考え実践していきたい。

４　おわりに

社会の在り方が急激に進展する中で、業務アプリ構築クラウドサービスやビジネスチャットを活用した迅速な情報共有によって生産性の向上を図り、働き方改革につながる具体的な取組を体験することができた。今後は、時代の変化に対応できる学校づくりにも参画し、地域の未来を担う人材育成に努めたい。

最後に、長期にわたる研修を受け入れてくださり、惜しげもなく会社全体を見せていただいた土屋建設株式会社の皆様に厚く感謝申し上げます。充実した研修を提供していただき、ありがとうございました。

ＮＴＴビジネスソリューションズ　株式会社

研修期間：令和３年４月1日～令和４年３月31日
所属/氏名：静岡県立浜松工業高等学校　教諭　小林　健太

研修の内容

1　プロジェクト工程の習得

開始済みのプロジェクトに参加し、「提案」「要件定義」「プロジェクト立ち上げ」「基本設計」「詳細設計」「構築」「試験」の各工程に関する理解を深める。

2　プロジェクト推進の習得

上記工程をプロジェクトリーダーとして推進し、推進方法についての理解を深める。また、複数のプロジェクトに参加し、プロジェクトの同時並行を学習する。

3　技術習得

配線、機器設置、通信確立やネットワーク・クラウドサービス等、提案や設計、構築に必要な知識・技術を習得する。

研修を終えて

1　はじめに

講師を含め８年ほど工業高校の教育に携わり、進路指導等を行ってきたが、企業理解や「企業で働く」ことに関する理解は浅く、卒業生の話を聞いたり、詳細な説明は他の教員に任せたりしていた。今後の教員生活においても重要な役割を果たす進路指導において、実経験に勝るものはないと考え、本研修に参加した。また、本校情報技術科での教育に生かすことができ、個人的にも強い興味があったネットワークやシステムエンジニアについて学び、自身の授業力と技術力の向上も目的の一つとした。

2　研修先の概要

NTTビジネスソリューションズ株式会社は、西日本電信電話株式会社のグループ会社であり、ビジネスユーザーに対する情報通信システムの提案、構築、サポート等業務を行っている。本研修で配属となったNTT浜松ビルは、静岡県西部エリアを担当しており、西部に拠点を置く企業や自治体等を対象に活動している。

3　研修を終えての感想

⑴　案件の進め方について

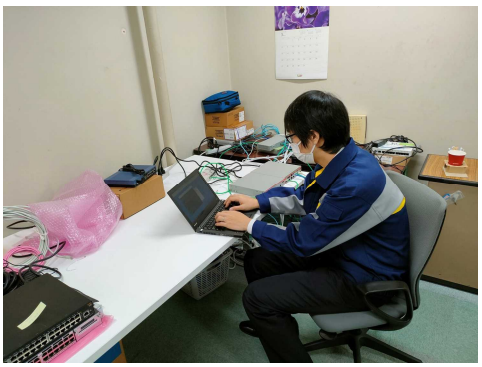
初めに、「プロジェクト管理」についての講義を受け、プロジェクトの開始から終了までの流れや、各工程における作業の概要等を教わった。その後、少しずつ稼働中の案件に参加することで、各工程についての理解を深めることができた。

初めのうちは、簡単な調べ物や資料の確認、会議参加や工事立会への同行等、スポット的な仕事や内容理解のための時間が多かったが、そういった時間が職場への慣れや扱っている仕事への理解に繋がっていった。そして、だんだんと関わる案件が増え、資料や必要書類の作成、プロジェクトの推進や同時並行等を行うようになり、プロジェクトの一連の流れとそれに必要な処理について体験することができた。

案件を進めるうえで難しいと感じたのは、スケジュール管理だ。自身の予定だけ見ても、時間的に余裕のある時は依頼された内容にすく取り掛かり当日中に対応することもできたが、いくつかの案件に関わり余裕のないときは対応に時間が掛かってしまった。内容によってもすぐできることと、一週間ほどかかってしまうものもあり、優先順位のつけ方に苦労した。また、自分以外が関わる内容に関しては更に難しく、社内だけでなく協力会社やお客様の状況によっても大きく異なるため、余裕をもったスケジュールと提出期限の設定、自分自身が早く取り組む等の時間の管理や、どの作業にどれくらいかかるかという見通しが重要であると感じた。

⑵　必要な知識・技能について

今回お世話になった部署では、大きく分けて「電話系」と「ネットワーク系」の業務があり、私はネットワーク系の業務を行った。学校での授業や業務で基本的なネットワークの知識があったため、ある程度の内容は理解できたのでよかった。しかし、ルータの設定やネットワーク設計等、より専門的な知識は足りていなかったので、教えていただいたり調べたりして、学びながら業務を行っていった。特に、新しいネットワークを提案する案件では自身で詳細設計を行い実際に動作するか検証を行ったが、知識が浅く想定も甘かったため、何度も調べたり、話し合ったり、検証したりした。



学校での経験がなかったら、基礎内容の理解だけで１か月は掛かりそうであったため、教育の方向性が間違いでないことが実感できた。また、今回はネットワーク部分のみの案件ばかりであまり関わる機会がなかったが、サーバ構築関連の業務もあり情報系企業への就職にはコンピュータとその周辺機器の知識や設定の基礎は必須であると感じた。さらに、当たり前ではあるがオフィス系ソフトやコンピュータの操作についても、身に付いていないと効率が悪いと感じた。

⑶　コミュニケーションの必要性

研修期間中、ほとんどの案件が大なり小なりチームで動いていた。それぞれが複数の案件を担当しながらも、メール等で情報共有ができているため、相談したり意見を求めたりするのが非常にしやすかった。資料作成等は基本的には分担されるため個人作業となるが、分からないことがあったら聞いたり、作成物に対する意見を聞いたりすることが容易であったし、構成検討等の打ち合わせの場でも様々な角度からの意見が出て、内容が洗練されたように感じた。直接関わりのない案件に関しても、皆さん丁寧に対応して下さるので、職場自体の雰囲気としても非常に相談しやすい雰囲気だと感じた。

周囲の雰囲気もあったが、なるべくコミュニケーションできるよう心掛けた。円滑なコミュニケーションにより仕事がしやすくなり、関係性ができていると自分の意見も発信しやすくなる。よくコミュニケーションが苦手で裏方の仕事を目指す生徒もいるが、あくまで「表にあまり出ない」というだけで、コミュニケーションは必要である。特に今回体験したシステムエンジニアの仕事は、社内や協力会社、お客様とも話す機会が少なくないため、コミュニケーションは必須のスキルであると感じた。また、直接的なもの以外でフォルダやファイルの整理に関しても、しっかりできていると話し合い等が円滑に進むため、コミュニケーションスキルの一部として必要であると感じた。

⑷　学校現場への還元について

一年間学んだ中で、学校現場へは特に進路指導と授業・業務改善として還元していきたい。

進路指導としては、業務の概要や現場の雰囲気、その中で何を感じ、何を得たのかを伝えることで生徒の職業理解を促し、関わりのあった会社について伝えることで、生徒の選択肢の幅を広げられると思われる。

授業改善としては、チームでの取組を導入したり、増やしたりすることで、内容を深められるとともに、コミュニケーション能力の向上にも繋がると考えられる。また、業務に関してもあまりチームで取り組む機会が多くないので、品質向上や技能継承のためにも取り入れることが有効であると感じた。

4　おわりに

本研修を通じて、「企業で働く」ということを体験できたことは、自分にとって非常に良い経験となった。仕事の内容や取り組み方、職場の空気感や必要な知識・技能等多くのことを学ぶことができ、進路指導や自身の技術力向上に繋げることができると感じた。

最後に、一年間という研修を快く引き受け、暖かく御指導下さったNTTビジネスソリューションズ株式会社の方々と、このような機会を与えてくださった県教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

株式会社　清水エスパルス

研修期間：令和３年４月1日～令和４年３月31日
所属/氏名：静岡県立浜松商業高等学校　教諭　近藤　敬介

研修の内容

1　ホームタウン営業部に関する研修

清水エスパルスのホームタウンである静岡市を中心とした県内各市町村との連携事業や地域貢献活動の企画実施等。キャリア教育授業や静岡市内高等学校とのコラボレーション企画を担当。

2　教育事業部に関する研修

エスパルスサッカースクールでの指導補助、スクール生を対象としたイベントの実施等。

3　育成部に関する研修

ジュニアチーム、ジュニアユースチーム、ユースチームの３カテゴリーの育成チームにおける指導補助。公式試合の運営等。

4　広報部に関する研修

トップチームを中心としたクラブ全体に関わる広報活動。公式ＳＮＳや公式アプリの管理運営、アウェイゲームの視察、練習時のメディア対応等。

5　公式試合運営に関する研修

清水エスパルスのホームスタジアムであるＩＡＩスタジアムのおける公式試合の運営。主に総合案内所を担当。

研修を終えて

1　はじめに

教員として正規採用され８年目を迎えるタイミングで本研修への参加が決まった。本研修をより有意義なものとするため、研修開始前に以下の目標を設定した。プロスポーツビジネスの世界を知り最新のビジネスの動向を把握すること、育成チームやプロチームの活動から部活動における指導方法やマネジメントを学ぶこと、学校現場と民間企業との違いを知り視野を広げることなど、研修を終え教育現場に復帰した際に、学校や生徒にどのように還元できるのかを念頭に置き１年間の研修に臨んだ。

2　研修先の概要

株式会社エスパルスは、静岡県静岡市をホームタウンとするJ１リーグ（日本プロサッカーリーグ１部）所属のプロサッカーチーム、清水エスパルスを管理運営する企業である。清水エスパルスは「わかちあう夢と感動と誇り」の理念のもと、スポーツを通した地域の発展とスポーツ文化の振興を目標に掲げ、環境保全活動や教育活動などさまざまな分野の地域課題の解決に取り組む地域密着型のスポーツクラブである。また、１９９２年に創設されたクラブは、２０２２年に３０周年を迎え、Jリーグ所属チームにおいて最も歴史と伝統あるチームの一つである。

3　研修を終えての感想

⑴　教科指導について

清水エスパルスでは、５００社を超える多くのパートナー企業と提携している。従来、企業がプロスポーツクラブのスポンサーとなる主な目的は、企業の価値と認知を高めるための広告宣伝効果を期待するものである。スタジアムやユニホームなどに看板や企業ロゴが入ることで、多くの人の目に触れ、その企業に好意的なイメージを抱くことも多い。しかし近年では、企業がプロスポーツクラブのスポンサーになる目的にも変化が起きている。それは、看板掲出等の直接的な広告宣伝効果ではなく、社会貢献としての支援を目的としたものである。２０１５年にＳＤＧｓが策定されて以降、その認知は着実に高まり、現在ではさまざまな場面でＳＤＧｓに触れる機会がある。民間企業においても、独自に目標を選定し、ＳＤＧｓへの取り組みを公表するケースが年々増加している。このように、プロスポーツビジネスの世界においても、現代社会の情勢に合わせた変化が刻々と起こっているのである。今回の研修を通して、これからの変化の激しい社会を生き抜く人材を育成するためには、学校や教員が社会の動向を常に把握し、時代に合わせた指導教育を行っていく必要があると改めて感じた。生徒が実社会との繋がりを感じながら、社会的課題に関心を持ち、その解決に向けた知識や発想力、行動力を培うことのできる授業作りに取り組んでいきたい。

⑵　部活指導について

本研修では、４月から３月までの研修期間のうち、７月・８月の２か月間は教育事業部、９月・１０月の２か月間は育成部をメインに研修を行った。育成部での研修では、これまで学校で指導を行っていた生徒たちと同年代のユースチームに関わったことで、さまざまな学びや気づきを得ることができた。清水エスパルスのユースチームは全国屈指の強豪チームであり、これまで数多くの大会で実績を残すとともに、毎年トップチームにプロ選手を輩出する名門である。そのようなチームに関わることで、サッカーの指導法やチームマネジメントについて大きな学びがあると同時に、学校教育として行われる部活動とプロクラブの育成チームの違い、それぞれの存在意義やあるべき姿について考え直すきっかけとなった。育成部での研修を通して改めて強く感じたことは、部活動とは生徒が自主的自発的に参加する活動であり、あくまでも学校教育の一環であるという認識を教員や生徒が強く持つことの重要性である。運動部などの競技性のある部活動では、活動の成果が目に見える形で現れやすい。故に、生徒のための活動がいつしか教員自身の目標達成のためとなり、また結果に囚われることで本来の目的を見失うケースが少なくないと感じる。学校教育の目的や部活動の存在意義の本質を見極めること、また社会の変化に柔軟に対応できる体制を整えていくことが今後の部活指導においてさらに重要になっていくと考える。

⑶　教員という仕事の魅力

１年間の民間企業研修を経験し、教員という仕事の素晴らしさとその職務の責任について再認識することができた。現在の社会の働き方に対する意識の変化や相次ぐ教員の不祥事などにより、教員を取り巻く環境は厳しい状況にあり、教員を志す人材も減少傾向である。確かに労働環境の改善や職務の効率化を図る必要性を感じる場面も存在する。しかしそれ以上に、純粋に生徒たちの成長を願い、「生徒ために」という思いのみで働くことのできるこの仕事の素晴らしさを強く感じる。教員という職業を通して、働くことの素晴らしさを行動や言葉で表現し生徒たちに伝え続けていきたい。

４　おわりに

本研修に参加したことで、これまでの教員生活を振り返るとともに、これからの社会を担う人材を育成するためにはどのような教育活動を行っていく必要があるのか、教員として身に付けるべき資質や能力、心構えが何なのを深く考えるきっかけとなった。今回の民間企業研修での経験を活かし、教科指導やクラス運営、部活指導などにおいて、広い視野と柔軟な発想で今後も職務に努めたい。

最後に、コロナ禍というプロスポーツビジネス界においても困難を極める状況下において、１年間という長期に渡り研修を受け入れてくださった株式会社エスパルスの皆様、本研修の機会を与えてくださった教育委員会の皆様に心から御礼申し上げます。

加和太建設　株式会社

研修期間：令和３年４月1日～令和３年９月30日
所属/氏名：静岡県立沼津特別支援学校　愛鷹分校　教諭　稲葉　美穂

研修の内容

1　案内所業務

お客様対応、情報ボードの作成、館内放送　等

2　イベント業務

イベント運営補助、農福連携啓発イベントの企画、スクールアートギャラリーの企画　等

3　全体

マニュアル作成業務、地域・福祉連携（産学連携・作業委託等）の企画、実施　等

研修を終えて

1　はじめに

私は、今の学校に勤務するようになり、軽度知的障害をもつ生徒たちが地域に出て働く姿や卒業生の就労後の様子を見聞きする中で、「人との関わり」と「社会に参画すること」の重要性と難しさを目の当たりにしてきた。また、昨年度から研修課という立場になり、学校全体として生徒が働くために育てたい力や生徒一人一人の卒業後の生活を豊かにするためには何が必要かを考える視点をもつようになった。そんな中、この研修の話をいただいた。最初は、初めて学校現場を離れることや半年間という期間に不安もあったが、職場実習に挑む生徒の姿に背中を押された。自分自身が民間企業で働く経験をすることでの気付きや学びを指導につなげたいと思い、今回の研修に挑戦した。

2　研修先の概要

今年、創業75周年を迎えた加和太建設株式会社は、土木・建築業による「モノづくり」を大切にしながら、地域を元気にする「まちづくり」を担うことに注力している。研修先である施設運営事業部は、造った建物を自ら率先して運営することで町に賑わいを生み出したいという思いから、2014年に発足した部署であり、９つの事業所がある。勤務先である道の駅伊豆ゲートウェイ函南は、2017年に開業し、伊豆の玄関口として函南町や周辺企業と連携し、利用されるお客様へのホスピタリティを大切にした運営を行っている。

3　研修を終えての感想

⑴　地域とつながる　【１人１人のアイデアカ＆実行するスピードカ】

研修先では今年度、福祉や地域との連携に注力し、多くの地域との連携業務に携わった。その１つである、酪農王国オラッチェ・県立伊豆の国特別支援学校高等部の３者が連携した野菜袋詰めの委託作業は、会社のスピードカとアイデアカを感じた。私は４月当初、仕入れた野菜を販売所の方が袋詰めしていることを知り、社員の方に特別支援学校の生徒ができそうな仕事だということを伝えた。機会があればぜひ連携したいという社員との会話から計画がスタートした。６月には本格始動し、学校の要望や社員の皆様のアイデアから酪農王国オラッチェにも連携先が広がった。そして、７月上旬に委託作業が実現した。最初は小さな気付きや視点でつぶやいたことが発展し、約２か月の間に実働に結びついている。現在では、さらに連携の輪が広がり２校の学校の校内実習への委託作業を行っている。この形になるまでのスピードと様々な人を巻き込んで進んでいく企画・運営の方法に大変驚いた。

この半年間で、別々の点だった想いや場所が、多くの人を介して線になっていく経験を積み、変化や新しい挑戦にも柔軟な視点をもち、アイデアを出し合うことの楽しさと大切さを改めて感じた。今後は生徒指導や授業において、生徒との会話を大切にし、小さな変化や気付きを拾うことのできる指導・支援を行いたい。また学校運営面では、今回できた企業や地域との縁を生かしてアイデアを出す側に立ち、待っているだけでなく能動的に動く教員を目指したい。

⑵　情報発信・共有　【スマートかつ相手のことを考えたコミュニケーション】

案内所業務では、地図・ポップの作成や地域情報コーナーの設置など「お客様のためによりよい案内を」という視点で、情報の発信を行った。私は、観光情報案内ボードや館内放送の原稿作成を行いながら、コンシェルジュとして観光地を案内する仕事を行った。この他にも、社員同士の情報共有ツールとして９種類の業務マニュアルを作成し、パートの方への仕事の引き継ぎで活用した。人に教えることで自分の業務の正確性を振り返る良い機会になった。

コミュニケーション面では、お客様との会話を生み出す声掛けや電話対応のスムーズさ（１コールで出る素早さ、30秒待たせない内線の回し方）など、社会人としてのスマートなコミュニケーションを学び、自身の甘さを痛感した。作成面では、伝えたい思いが強くなると情報過多になりやすいので、見やすいものになっているのかを考え、情報を精選するようにした。

この業務から学んだ、相手のことを考えて伝える姿勢を学校でも生かし、授業中の全体指示や手順表の作成時も情報を精選していきたい。また、対生徒だけではなく、教員同士の引継ぎ資料でも同様に、必要な時に見やすい資料となるように、情報の精選や図やリンクを活用した表記の工夫を行う重要性を実感した。

⑶　組織で働く・仕事をつなぐ　【役割を考えて動く＆チームワーク！】

９月実施予定で進めていた農福連携・福祉イベント「エス・ウェル・フェス」の計画を立てた。社員の方とたくさん話し合い、プレゼンテーションを重ね、「静岡で笑顔いっぱいの１日」をテーマに「見るshow・学ぶstudy・買うshopping」のキーワードに沿ったブースを企画し、多くの事業所・学校の協力を得ることができた。これも、施設運営事業部の皆様が情報やアイデアを下さったおかげで、つながりを広げることができた。残念ながら９月にイベント実施はできなかったが、イベント内の企画を抜き出し、美術作品を展示する「スクールアートギャラリー」の年間を通した実施計画を各校や道の駅伊豆ゲートウェイ函南のテナントに提案した。イベントも11月に延期をし、社員の皆様が引き続き計画や準備を行ってくれている。

これらの対応ができたのは、日常から相談を重ねられるチーム力と各々が役割を考え計画的に動く力があるからだ。中間経営方針発表会で社長は、30代の働く社員への期待を語っていた。組織の中で任される仕事が増えていくことはもちろん、若手を支援する立場に入る機会も出てくるだろう。この研修を通して、自分自身の仕事の計画性を高めると共に、複数で授業や行事に入る際に上手に支援できる人を目指したいと、以前よりも感じるようになった。この研修先で実践していた３か月活動計画を活用して仕事を可視化し、自分のやるべきことや仕事の優先順位を見直していきたい。また、個人で活用するだけでなく、チームで共有することで協力体制を作っていけるようになりたい。

４　おわりに

加和太建設株式会社の行動指針の中に「誠実に・よく学ぶ・やりきる」という言葉があります。私は、生徒にとって身近な働く大人の見本として、研修終了後もこの姿勢を大切にしていきたいです。また、研修の成果を少しずつ学校に発信しながら、地域に愛される生徒を育て、社会へと橋渡しのできる教員に成長していきたいと思います。

最後に、大変お忙しい中、研修を受け入れてくださった加和太建設株式会社の皆様、中でも多くの時間を割いて御指導、御支援をしてくださった道の駅伊豆ゲートウェイ函南の皆様に、深く感謝申し上げます。半年間ありがとうございました。

野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社　メガロス浜松市野
研修期間：令和３年４月1日～令和３年９月30日
所属/氏名：静岡県立袋井特別支援学校　教諭　祝　一真

研修の内容

1　スイミングガード業務

プール内の監視、人数確認、水質チェック、レッスンの準備片付け

2　マシンジム業務

マシンジムエリアの監視、スタジオレッスン整理券の設置、久々に来館されたお客様へのアテンド、消毒・清掃作業

3　フロント業務

レジ入金、点検、接客、子供の検温、商品の検品、販売

4　スイミング、テニススクールレッスンサポート

レッスン準備、ウォーミングアップ

5　清掃業務

館内清掃、プール内の清掃、消毒作業

6　研修

各セクションのミーティング参加、商品に関する ZOOM 会議、学校への営業

7　その他

リニューアルオープン準備、イベント準備・運営

研修を終えて

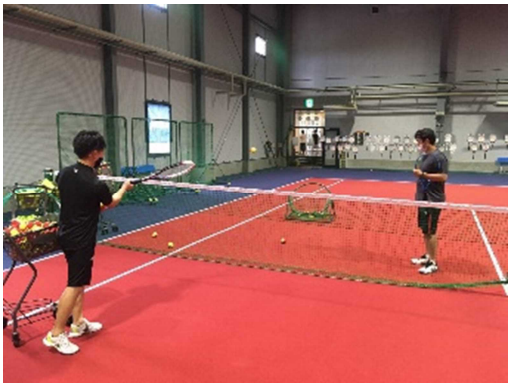
1　はじめに

私は、特別支援学校を卒業後、運動する機会が大幅に減少する子供たちのために、体育の授業を通して運動機能やボディーイメージの向上を図ったり、子供たちやその保護者のためにスポーツクラブの素晴らしさを紹介したりすることができると考えた。また、学校に勤務する教職員の健康の保持増進、ストレス発散につなげることができるなど、教育現場で生かせることが多いと思い、本研修に臨んだ。

2　研修先の概要

野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社は、健康の新たな価値を提案し続ける企業として、スポーツクラブ事業の枠を超えた生活全般にわたる新たなサービスの提供を行い、日々の生活と人生の充実に寄与する企業となることを目指している。

メガロス浜松市野は、フィットネスクラブやスイミング、テニス、体育などのキッズスクールの企画開発・運営を行っている。企業や自治体向けの各種サービスも行っている。



3　研修を終えての感想

今回、フィットネス、スイミング、テニス、サービスと各セクションの業務に携わったり、メガロス浜松市野と近隣のイオンモール浜松市野との合同で行ったスポーツフェスティバルというイベントの営業活動や当日の運営などにも関わったりすることができた。さらに店舗としては初めてとなるリニューアルオープンに向けての準備に携わるなど、幅広い業務を経験することができた。

⑴　お客様ファースト

メガロスの企業理念は「顧客満足度を感動と喜びに変える」である。お客様への丁寧な挨拶、話し方、久々に来館のされたお客様へのアテンド、お客様の要望に応じた対応（トレーニング方法、商品）など、お客様が心地よく施設を利用できるように接客とサービスを提供しており、働く人として必要な姿勢を学ぶことができた。また、コロナ禍ということもあり、清掃や消毒も徹底的に取り組んでいた。一見地味な業務に思えるが、お客様から「ありがとう。」や「安心して使えるよ。」などの言葉をいただき、清掃や消毒をすることで、お客様に安心感を与えたり、誠意を見せたりすることができる大切な業務であると痛感した。

⑵　運動量の確保とメリハリ

アシスタントコーチとしてスイミングスクール、テニススクール、ミライク（メガロス独自の体育スクール）などのキッズスクールに入り、子供を指導する場面を見させていただいた。子供たちが意欲的に取り組むことができるように活動量が確保されていた。また、スクールに通う子供は幼稚園の年少から小学校高学年までと年齢が幅広いため、集中力が散漫にならないよう、活動にメリ

ハリをつけたり、子供の興味に合わせた道具や話題を提供したりしながら進行していた。学校の体育の授業においても、児童生徒の活動量の確保、活動のメリハリ、意欲的に活動できるような教材を用意したり、言葉を掛けたりすることを再度意識していきたいと感じた。テニスのレッスンの中で経験した「テニピン」や、ミライクで取り組んでいたウォーミングアップなど、親しみやすい運動であると同時に、ボディーイメージを養う運動としてとても参考になったため、今後の体育の授業に取り入れていきたいと思っている。

⑶　地域貢献活動とスポーツクラブの周知

メガロスは地域貢献事業の一つとして「こどもみらいプロジェクト」を行っている。今回、７月にスポーツフェスティバルというイベントを企画した。イオンモール浜松市野と合同で行い、メガロスを知ってもらうことを目的として、一般のお客様を対象に体力測定会や姿勢のチェックなどを行った。このイベントを開催するにあたり、近隣の特別支援学校に営業活動を行った。イベント概要の説明や、チラシ配布の依頼、メガロスの紹介、学校内の見学を行った。コロナの影響もあり、当日の参加者はなかったが、学校にとっても近所にスポーツクラブがあることや、学校行事への手伝い、プロによる各種の指導が行えることなど、様々な形でつながることできるということを伝えられた。また、メガロス側にとっても、特別支援学校の現状やどのような児童生徒が通っているかなどを知るきっかけになったと感じている。今後も、様々な形で連携をとっていきたいと思った。

⑷　情報共有の大切さと職場の雰囲気作り

メガロスの勤務形態は、営業時間が長く早番と遅番に分かれ、シフトも日によって異なる。出勤後の朝礼で、メガロスの企業理念や行動指針を唱和するとともに、全体の連絡事項を確認する。お客様の入退会の情報や、体験者の人数、イベントの詳細、ショップの現状やその日の売り上げ目標など全員が朝礼で確認を行う。シフトにばらつきがあることやお客様の要望に応えるためにも、どのようなことも声に出し、情報共有を行うことが非常に大切であると学んだ。

また、比較的若い年齢層が活躍するメガロスでは、コミュニケーションを積極的にとることで、相手の性格や特徴を理解したり、年齢や経験に関係なく意見を出し合ったりしていた。話しやすい雰囲気を作ることで、若手の人材育成にもつながると学ぶこともできた。学校でも、年齢的に中堅の立場になるため、たくさんの人と積極的にコミュニケーションをとり、円滑に話し合いを進めたり、何でも言い合えるような集団作りをしたりして、学校のチーム力を高めていきたいと感じた。

４　おわりに

今回の研修は、教育現場しか知らない私にとって大変貴重な経験となった。将来、子供たちが豊かに生活できるようにしたり、子供たちや保護者、教職員が「健康」に興味関心をもったりできるように、今回の研修で学んだことを必ず実践し、スポーツクラブの素晴らしさを伝えていくことが私の使命だと強く思っている。

株式会社　静岡銀行

研修期間：令和３年４月1日～令和４年９月30日
所属/氏名：富士市立丘小学校　教諭　石田　和良

研修の内容

1　事業案の提案、企画、打合せ、資料作成
2　取引先、新規取引先業者、地公団体との面談、商談会の企画、準備、運営
3　研修会、勉強会、講演会への参加
4　支店業務補助（補助金等データベースの更新）
5　イベントの開催、運営（しずおかキッズアカデミー・キッズサマースクール等）

研修を終えて

1　はじめに

コロナ禍におけるテレワークの普及により、東京一極集中や働き方が見直される昨今において、地方創生は大きな課題である。小学校では県や市町の様子や郷土史についての学習を通じて、地元を知る、地元で学ぶという地方創生への関わりはあるが、民間企業が行う事業としての地方創生に興味があった。また、私は日頃「夢をもつことの大切さ・将来の自分の姿」を伝えることを意識して教育活動を行っている。将来学校を卒業した子供たちの多くは、社会に出て働くことになるだろう。教員という働き方しか知らない私にとって民間企業で働く経験は「夢をもつこと・働くこと」への具体的な指導に繋がると思い本研修を希望した。

2　研修先の概要

「静岡銀行」　設立：1943 年３月１日　経常収益：1801 億円　従業員数：約 2776 名
店舗数：210 店舗（県内 173 か所　県外 32 か所　海外 5 か所）

三大地方銀行の一つであり、地域の総合金融機関として【地域密着】と【健全経営】を掲げ課題解決に取り組んでいる。主な業務は預金業務、貸出業務、為替業務だが、多様化するニーズに応えるため、15 の部署、13 のグループ会社があり対応している。基本理念「地域とともに夢と豊かさを広げます」のもと、地域との共存共栄を目指すとともに、地域の皆さまが描くビジョンの実現に向けた伴走支援に取り組んでいる。

「静岡銀行：地方創生部」　設立：2015 年

地域が抱える様々な課題解決に取組むべく、産官学金労言士の多様なステークホルダーとの連携により、地域と共に持続可能な成長の実現を目指した事業を展開している。

3　研修を終えての感想

⑴　銀行が取り組む地方創生　～地方創生、「主役は地域」～

研修先で最初に感じたことは、自由な発想が生まれる企業風土と高いコンプライアンス意識だ。お客様やお取引先の重要な情報を取り扱う銀行において、情報漏洩防止のためのいくつものルールや研修会があり、行員一人一人が高い意識のもと徹底していた。一方で地方創生という大きな課題解決に向けて創業支援、農業、移住定住を重点テーマとして取り組んでおり、そこには今までにない発想が必要である。地方創生部ではフレックス制の導入やプロジェクトごと必要な人が集まり座るフリーアドレス制がとられていた。また地方公共団体との人事交流を行ったり、SDGs 推進や DX 化に向けてセミナーを開いたりと社会の動きにアンテナを高くする姿勢がビジネスマッチングや人材育成などの地方創生事業に繋がるのだと感じた。

コロナ禍で苦しむ取引先支援のための企画を打ち出したり、イベントや事業を中止するのではなくオンラインに切り替えたりするなど、柔軟な姿勢も見習いたい。

⑵　社会で働くこと～教員の働き方の違いや共通点

新たに事業を考える際の視点として教えていただいたのがストーリー、スピード、シェアの３つの視点である。ストーリーとは新しい事業を始める際に、現況や課題の把握、事業を行う意義や具体的なプラン、事業実施後の波及効果について仮説を立てて企画を行うことである。これにより部内や取引先と具体的なイメージ共有ができ、今後の展望を見越して対応をすることが可能だと指示を頂いた。

学校現場でも授業や行事を企画する際に目標や運営計画を立てるが、事業費や取引先の対応など金銭面や外部との接触が多い企業では、このストーリーがより緻密に描かれていた。多角的、継続的にストーリーを考える視点は、学校で慣例的になっている行事や取組の精選や効率化に繋がると感じた。

次にシェアについて、全体で約 3000 人近くが在籍する企業において、経営方針の共有は必須である。静岡銀行では経営方針の共有として頭取からのメッセージを PC 端末に表示、ビデオニュースを使った映像配信、支給された業務用スマートフォンのチャット機能を使って取組事例の報告な

ど、様々な方法で情報共有が図られていた。学校においても GIGA スクール構想のもと整備されたタブレットを活用していくことで対応できるのではないかと考える。

所属部署では毎日の朝礼で新しい補助金制度やセミナーの紹介、部長からの指示・伝達が行われ、一日の業務内容を日誌に記入して提出した。一つの事業にチームで取り組み、スモールステップでその日の進捗状況をシェアすることで、ゴールヴィジョンのズレを少なくして効率的に進められるようにしていた。学校現場においても、学年部や学校全体がチームとして働くことが求められており、若手教員の育成や、教員の仕事の抱え込みを防止する観点からも有効な方法であると感じた

スピードについては、熱海の土石流災害が起きたときに強く感じた。すぐに銀行から支援金が送られ、当部では熱海支援の事業として「買って応援！エール熱海プロジェクト」が企画・実施された。これは被災地域にある静岡銀行の取引先の商品を EC サイト通じて静岡銀行グループ役職員に案内するという企画であった。日頃から地域のため、お客様のためを意識した理念があるからこそ、必要な時にすぐに事業に移せるのだと感じた。またお客様に対して素早いレスポンスが信頼を生むのだと感じた。

⑶　夢をもつこと、働くことをどう指導していくか

地方創生部には、若者人口流出防止と郷土愛をもった人材の育成を目的とした「しずおかキッズアカデミー」事業がある。これは小学生を対象に地元の企業と連携して地元の魅力を伝えて、将来的な地場産業振興を目指している。この事業では企画の頭出しから当日のイベントの司会進行まで全ての業務に関わることができた。打合せの結果、袋井市・北杜市交流事業と連携し、両市の特産品(フルーツ)を使った親子スイーツ作りをオンラインで行うことになった。当日は市役所の方に地元の魅力を紹介してもらい、実際にそこに住む子どもたちから自分のまち自慢の発表や、特産品生産者から栽培方法や特長について話を聞いた。参加者には特産果物が入ったスイーツセットを事前に届け、プロのパティシエ指導のもと、スイーツ作りが行われた。スイーツ作りでは進捗状況に差が出たが、個別に対応することで参加者から満足の声を聞くことが出来た。オンラインでの授業が本格的に取り組まれている中で、映像配信企業と協働できた事は、大変貴重な経験となった。また一つの事業を行うのに、企画書の作成、予算の協議、後援申請、共催・協力企業との打合せ、プレスリリースなどの様々な業務があり、それらに関わる多くの事業者と関係を築き、互いに調整しながら計画していった。この協働性や調整力は、これから社会に出て働く子供たちに必要な力であると感じた。これらの力を養うために課題解決型の授業を展開していきたい。そして郷土愛の醸成には子供たちが本物のもの、大人、仕事に触れることで生まれる憧れや誇りが大切であると改めて感じた。

4　おわりに

今回、研修を快く受け入れて下さいました静岡銀行地方創生部の皆様に感謝申し上げます。目の前のお客様のため、地域発展のために働く姿は、教員として子どもと向き合う姿と重なり、改めてその大切さを考えさせられました。今回の経験や繋がりを生かした実践を教育現場で展開し、児童や職員に伝えていきたいです。今後は教育という形で静岡県の魅力を伝え、郷土愛の醸成・地方創生に取り組んでいきます。ありがとうございました。

株式会社　Ｚ会

研修期間：令和３年４月1日～令和４年３月31日
所属/氏名：掛川市立東中学校　教諭　曽根　隆央

研修の内容

1　コーチ（授業をする学生）へのオンライン研修実施（４月～３月）

⑴　オンライン授業で生徒に学力をつけさせるための工夫等

⑵　授業での困りごと相談・助言

2　コーチへの授業評価ルーブリック作成・評価・評価面談（１１月～３月）

⑴　関西大学「エデュカレ」ルーブリック活用オンライン講座参加

⑵　授業の録画を視聴しての評価

⑶　15分～30分程度の評価面談

3　オンライン難関攻略ゼミ（学力上位層向けサービス）での授業実践

⑴　英語授業（６月～３月）

⑵　東京都立日比谷高校・西高校特訓ゼミ国語授業（１月、２月）

4　オンライン難関攻略ゼミ授業の運営・サポート（４月～３月）

⑴　トラブルの未然防止（マイク接続チェック、Wi-Fi環境の確認）

⑵　授業中のトラブルへの対応

5　オンライン難関攻略ゼミのプロモーション動画作成（８月）

⑴　コーチや生徒・保護者との出演交渉や調整

⑵　動画編集ソフトを使用しての動画編集

6　東京都立日比谷・西高校の国語入試問題分析（１２月、１月）　　など

研修を終えて

1　はじめに

生徒には「学校の勉強をすることで、社会に出てから必要な力を身につけていくのだよ。」と伝えてきたが、私自身が民間企業で働いた経験がなく、学校での社会しか知らず、実感を伴った話を生徒に話すことができなかった。本研修を通して、先進的なＩＣＴ教育や民間企業の組織体制や意思決定フロー（流れ）、コスト意識や管理について、教育を取り巻く外部環境と民間企業の動向について学び、民間企業で必要な能力を実感し、今後の教育活動に生かすことができるまたとない機会だと思い、研修に臨んだ。

2　研修先の概要

株式会社Ｚ会の前身である「実力増進会」は1931年に設立され、会員が「増進会」を「Ｚ会」という愛称で呼んでいたことから、2006年より社名を「Ｚ会」としている。本社を三島市文教町に置き、グループ理念に「最高の教育で、未来をひらく。」を掲げる。

通信教育を中核の事業として発展させながら、教室事業、出版事業など様々な業態に拡大。通信教育では、タブレットやｉＰａｄを活用したデジタル学習サービスも提供している。教室事業では、首都圏や関西圏の他に三島でも「Ｚ会進学教室ラボラトリ三島」を展開している。

3　研修を終えての感想

⑴　ICTを使ったコミュニケーション

仕事を進めていく中で驚いたことは、ICTを使ったコミュニケーションツールを多く採用していることだった。会議はオンラインで行い、検討事項があればその場で互いに文書を編集しながら議論を進めていた。また、自分やチームのメンバーが担当している仕事を見える化し、進捗状況を確認したり仕事を依頼したりすることもできた。さらに、電子起案サービスも採用しており、仕事に必要なものの購入依頼やパソコンへ新たなソフトをインストールしたい場合もオンライン上で起案を回し、許諾を得ることができた。

学校現場でもこれらのコミュニケーションツールを活用すれば、資料の大量印刷や配布作業がなくなり、業務量の偏りが解消され、事務作業時間の削減に繋がると感じた。採用・導入には大きなコストがかかると思うが、業務の効率化に繋がり、教員の働き方改革を進めることができるのではないかと感じた。

⑵　データを基にした議論

問題解決をする際には、データを基にして議論を進めていた。保護者・生徒アンケートの結果やプロモーション活動を経ての集客状況から問題点を洗い出し、解決策を話し合っていた。データを基にすることで、これまでの常識や固定観念に縛られずに議論を進めることがき、既存のお客様や今後オンライン難関攻略ゼミを受講する可能性のあるお客様のニーズに合わせてサービスをよりよくすることができることを学んだ。時代の流れと共に学校を取り巻く環境は大きく変わっていき、地域社会からの要求も変容していく。様々な価値観をもった保護者や生徒がいる中で、個々の要望に対応していくのは難しい。しかし、生徒の学習状況や生活状況をアンケートなどによって聞き取り、現状よりよくしていくことは可能ではないかと考えた。これまでも学校評価アンケートなど、客観的なデータは学校や学級単位で取っていたが、あまり気にしていなかった。本研修で客観的なデータから解決策を考えることの重要性を学ぶことができたので、今後はそのようなデータも参考

にし、授業改善や学級改善に生かし、生徒の学力向上や社会で役に立つ力を身に付けることができる教育活動をしていきたい。

⑶　オンライン授業

年間を通してオンラインでの授業を担当した。学校現場でオンライン授業を実施することなった場合には、率先して準備や助言が出来るようになりたいと考え、コーチ（中学生へ学習指導をする学生）たちへの研修に備えて指導事項を学習したり、コーチたちや他の研修担当の方とよりよいオンライン授業について議論したりしながら実践した。

オンライン授業で見やすい板書の書き方や円滑なグループワークの仕方、生徒の考えを把握する方法など、対面の授業とは異なる難しさもあった。しかし、それ以上に新しい形態で授業をすることに大きなやりがいを感じていた。学校現場でのオンライン授業実践は多くないと思うので、実践する場面があれば積極的に準備を進め、先生方と協力して取り組んでいきたい。

4　おわりに

本研修を通して、株式会社Ｚ会で働く皆さまから、かけがえのない多くのことを学んだ。そして、民間企業で働くことの苦労ややりがいを感じることができた。ただ単に利益を求めるのではなく「お客様に最高のサービスを提供し、喜んでいただく」ことを最上位の目標に掲げ、できる限りの努力をしていることを肌で感じることができた。今後は学んだことを積極的に活用し、現場に還元していきたい。最後に、本研修を快く受け入れていただき、丁寧に指導してくださったオンライン指導課の皆さまをはじめ、株式会社Ｚ会の皆さまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

はごろもフーズ　株式会社

研修期間：令和３年４月1日～令和４年３月31日
所属/氏名：沼津市立門池中学校　教諭　知野　匡伸

研修の内容

1　新入社員フォローアップ研修に関する研修
2　採用活動に関する研修
3　健康経営に関する研修

研修を終えて

1　はじめに

今年度社会人10年目を迎えるにあたり、教育現場の中でこれまでに経験したことのない生徒指導主事や特別活動主任といった業務に携わりたいと考えていた。年度末に学校長から「民間企業研修を受けてほしい」という依頼を受け、教育現場を離れることに不安を感じたが、全職員が対象となる研修ではないため、研修の対象となったことに喜びを感じ、多くの学びを得ようと前向きな気持ちで研修を迎えた。

2　研修先の概要

創業は昭和6年5月25日、今年で90周年を迎えた。はごろもフーズは、製品の提供・食文化活動を通し、食卓の笑顔・家族の団らん・人々の幸せを追求している。はごろもフーズの製品の源泉は地球の恵み・海や大地の産物と考えており、資源を大切に扱っている。まごころのこもった活動を通して、多くの人々から、そして地球から愛されることを目指している企業である。

3　研修を終えての感想

⑴　学校教育の変化に対応した新入社員フォローアップ研修の取り組み

中学校では2021年度から新学習指導要領が全面実施された。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の視点からの授業改善を重要視しており、教員から授業を聞くだけでなく、生徒が自ら調べたり、実験や議論したりする機会を設けることで、社会に出ても適用できる主体性や対話力を高めようとしている。そこで、新入社員フォローアップ研修も例

年通りではなく、互いの意見を共有し、意見を深める時間が必要であると感じたため、アクティブラーニングを意識した取り組みを提案した。

実施後の新入社員の反応として、「発表できる機会が多くあり、理解が深まった」「グループワークや、発表会を通して人前で話すことに慣れた」という感想が多くあったため、インプットしたことをアウトプットし、フィードバックすることで、多くのスキルが身につくことを実証できた。

⑵ 新入社員研修に携わることで感じたこと

はごろもフーズ株式会社は入社してから５か月間新入社員研修を行った後、全国の各営業所に配属されている。入社後３週間は役員や各部署の講話を聞くこと、協力工場やスーパーの視察などを行い、会社の概要について学び、その後３か月間工場実習を行い、製品が消費者に届くまでの工程を学んだ。まとめとして、本社を中心にフォローアップ研修を行い、営業現場に出る上で身につけておくスキルを学んだ。新入社員に話を伺うと、「研修を受けるとあっという間で、ここまで丁寧に研修を行ってくれてありがたかった」「多くのスキルを身につけることができた状態で営業現場に配属となってよかった」という言葉があった。

この研修に携わることで感じたことは、学校現場においても大卒１年目の教諭に対して、今以上に手厚いサポート体制を整えられないかと感じた。初任者研修や講師の方に対する研修は行っているが、現状として大卒１年目から、担任・顧問・授業・分掌担当と任されることが多い。経験や知識が少ない状態で生徒の前に立つことで、うまくいかないことの方が多く、ストレスを抱えた状態で日々の業務にあたることになる。それは自分自身にとっても生徒・保護者に対しても良い状態とは言えない。教育現場も、現場に出る前の研修期間を確保し、指導教官の下で授業参観を繰り返し行う中で、週に回数を決めて授業を行ったり、部活動も全部活の副顧問として、多くの部活動のサポートや部活動の経営方法を学んでいったりしていくことが必要であると感じた。担任を任された場合は、生徒指導だけでなく保護者対応も柔軟に行わなくてはいけないこと、他の教員の学級経営方針をじっくり観察する時間も確保できないことから「自分の方法で合っているのか」と不安を重ねてしまうため、１年目は級外からスタートし、多くの学級の経営方法を学ぶべきだと思った。

学校体制をすぐに変えていくことは難しいが、私の勤務先には大卒１年目の講師や採用２年目で初担任の教員が在籍しているため、その二人の授業を参観したり学級経営の様子を見に行ったりして、週に１時間、指導助言する時間を時間割に組み込んでいただこうと思った。生徒を育てていくためには若手教員を育てていくことが必要であると感じたため、少しでも不安な気持ちをなくした状態で生徒の前に立てるようにサポートしていきたい。

⑶ 健康経営の取り組みを通して

健康経営について考える機会をいただき、フォローアップ研修の中で、健康に関する取り組みで何かできることはないか考えた。健康な体つくりは、日々の食生活と運動が大切と言われているが、

「コロナ禍で、気軽に外に出て活動することができない」「仕事を終えてから外に出て体を動かすのは大変だ」といったことから、運動機会が少ない従業員が多い。そこで健康を保持増進し、新しい生活様式に備えるために、「誰でも簡単に実践できる健康な体作り」をテーマに、健康に対する意識を高める機会を設けたいと考え企画をした。講師は、私が高校生時代に部活動でお世話になったスポーツトレーナーに依頼した。当日は、実技メインで実施し、室内でもできる運動方法や体のケア方法を学ぶことができ、実施後のアンケート調査において全ての項目の評価が高く、実施できたことに喜びを感じた。

食品会社とスポーツトレーナーを繋ぐことができたため、健康経営に関して更にできることはないかと考え、福利厚生の一つとして、社内でマッサージを受けることができる体制や、新入社員が行った運動方法や体のケア方法を学ぶ機会を設けることができないか提案させていただいた。会長から「例えば、社内の部屋を一つリラックスルームにして、その部屋にマッサージチェアを置くのはどうですか」という話を受け、一つの提案から、発想が広がったことが嬉しかった。

提案をするにあたり、可能な限り従業員一人ひとりにインタビューを行い、結果的に107名の声を聞くことができた。インタビューを行うと詳しく答えていただき、より多くの情報を得ることができた。現在SNSの普及に伴い、便利な世の中になっているが、その反面ネット上でのコミュニケーションが活発となり、自分の意思を相手に正確に伝える力が弱くなっている。沼津市の学校現場では、生徒一人ひとりにクロームブックが貸与され、授業内を中心に積極的に活用しているが、使い方に留意しなければ、言葉と言葉で交わすコミュケーション能力は低下してしまう。使う目的を明確にした上で上手に活用していき、生徒のコミュニケーション能力を養っていきたいと感じた。

⑷　採用活動を通して

2022年度入社の採用活動に携わり、数名の面接を行った。最終選考に進んだ学生に共通していたことは、明確な目標があり、入社したという熱意があるだけでなく、表情の豊かさであった。対話をしていて好印象を受けた学生は、はきはきとした受け答えと、笑顔を交えた話し方であった。取引先との商談において信頼関係を築いていくために、製品の魅力をただ伝えるだけでなく、表情豊かに感情を込めながら話をすることが大切であると伝えられた。学校現場においても対話について指導する場面は幾つもあるため、相手の立場になって、表情豊かに自分の思いを表現できるスキルを身に付けられるように、日々の対話活動の中で指導していきたいと思った。

4　おわりに

教員全員がこの制度を受けることは難しいと思うが、教育現場を離れて違った角度から学校と向き合うことは必要なことだと感じた。誰もが受けることが難しい研修に携わることができたからこそ、今後更に経験を重ねて教育現場を引っ張る存在にならなくてはいけないと思った。研修の対象となったこと、研修先で多くの学びがあったこと、このような人生に導いてくれたことを決して無駄にすることなく、教育現場に還元していきたい。そして、今後も人との出会いや繋がり、感謝の心を大切にしていきながら、教育者として・人として更に成長していきたい。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった静岡県教育委員会及び学校関係者の皆様、私を受け入れていただき、手厚いサポートをしてくださったはごろもフーズ株式会社の皆様に、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

企　業　御　感　想

1年間お疲れ様でした。

最初のころは、普段の業務内容と違い、1日中体を動かす作業ばかりで大変そうでしたが、徐々に身体が慣れてきて、貴重な戦力となって頂きました。また、農業部門の従業員へ積極的にコミュニケーションを図り自身の経験や知識をもとに意見を主張するなどし、部門の意識向上や改善策を試案するなど大変良い影響を与えて頂きました。

本業の建設業での現場研修もありましたが、体験したことを様々な側面から情報や知識を吸収して個人の能力向上に努めている印象が強くありました。

弊社担当者は、チーム（クラス・学年・学校）作りをする上で1つの方向に皆で向うよう導くということを普段から運営している、教師としての技術や経験を先生から勉強させて頂きました。先生の益々のご健勝とご活躍をお祈りします。

（土屋建設　株式会社　芹澤様）

当初からの目的である「学校教育への貢献」をブレずに研修をされており、意思の明確さや強さがある方と感じました。

技術面では NW 知識をお持ちであり、その知識を生かして各種案件に取り組むとともに、不明な箇所は当社のメンバの方へ問い合わせる基本動作も実施いただき、1 歩 1 歩着実に物事を理解し進める方と思います。

コミュニケーションとしては、SE 担当内で世間話を含め気兼ねなく接していただくとともに営業担当との認識合わせも 1 人称で実施いただきましたが、研修終盤にて S 社様案件で困ったときは 1 人で抱え込まず SE 内で相談いただくコミュニケーションを図っていただき、難題も乗り越えることができる方と思いました。

双方にとても有意義のある研修だったと感じております。

（ＮＴＴビジネスソリューションズ　株式会社　志賀様・福田様）

誠実で前向きな姿勢は社内からの評価が高く、期間内に多数の部門を研修するメニューにおいて、良好な関係性で 1 年間の研修を終えることができました。

ビジネス分野・競技性の要素の強い分と、異なる特徴のある複数の部門において、積極的な姿勢で受講することで、想像以上の研修成果があったものと思料します。

心身共に負荷もあったと思いますが、この経験を教育現場ならびにサッカー界にいかしていただければ当社としても幸いです。

部活動等においてサッカー指導に係る教員の方を受け入れることは、当社としましてもアマチュア選手に対する人間力向上指導のための最新知見を知る良い機会と考えます。

当社としても学校部活動における生徒指導等における最新ノウハウをご指導いただきたく、同様の研修を継続的にお願いしたいと考えます。

（株式会社　エスパルス　杉山様）

半年間の研修本当にお疲れ様でした。積極的な姿勢で社員に刺激を与えてくださり、施設を訪れてくださるお客様にも常に明るい笑顔でご対応くださいましたこと、お礼申し上げます。

様々な取り組みのなかでも、産学官連携を遂行されたことは輝かしい実績です。物産販売所の商品の袋詰め、施設内の花壇の植え替え、飾りの工作などの作業学習委託以外にも、イベントの企画・実施も実行されました。「地域と繋がる」という当社の目標を、福祉の視点から実現くださり、私たちも大変勉強になりました。

新入社員Off-JT研修、中途入社社員のOJT研修にも関わっていただくなかでは、「卒業後社会に出ていく生徒さんの活躍を支援したい！」という強い想いを感じておりました。そのような想いをお持ちの先生の、今後一層のご活躍を社員一同心より応援しております！

（加和太建設　株式会社　小松様）

４月から半年間研修期間中、自身の成長だけでなくメガロスがどうなると更に良くなるかまで考え業務に努めやてくれてました。

当社が若い人材が多い中なので、基本的な社会人としての立ち振る舞いお客様との会話など色々と学ぶことも多く大変助かりました。

スタッフのみならずお客様からの信頼もあり最終月には研修終了を悲しがり、休みの中だったりいつもと違う時間帯に会いに来てくれる方が多くいて、コミュニケーションをしっかり取り信頼を得ていたと思います。

私自身もプール指導や近隣の子供たちの活性化の為、色々イベントなど一緒にやる中で学ぶべきことが多く感謝しております。

なにより本人の、子供たちに対する想い、教育への想いが強く、今回の研修生のような教員がいれば学校現場も明るく子供たちもしっかりと自立していくんだと感じました。

（野村不動産ライフ＆スポーツ　株式会社　木内様）

地方創生部では創部以来、地域の子供たちの郷土愛の醸成し、将来地域に貢献できる人財を育てようと「しずおかキッズアカデミー」を企画、運営しています。

過去に参加した児童、保護者は1,800名を超え、関心の高さがうかがえます。

石田先生にはこのキッズアカデミーの企画、運営に携わっていただきました。実施後のアンケートでは、児童の満足度は非常に高く、彼の業務に対する誠実度、子供に対する温かい愛情を感じ取れる企画となりました。

地方創生の業務はこのほかにも「まち・ひと・しごと」をキーワードに、幅広い分野で企画運営をミッションとしており、成果が必ずしも短期的に現れるものばかりではありません。　「しずおかキッズアカデミー」のように成果が10年後に現れてくるものも多数あります。石田先生はこうした中長期的な企画に参加いただき、何年か後に成果を共有できたら、我々銀行としても幸甚です。

（静岡銀行　株式会社　伊賀様）

2021年度にリニューアル開講した「オンライン難関攻略ゼミ」の業務に従事いただきました。サービスへの意見だしや企画立案から実行まで一連の流れを体験いただき、様々な視点でのご意見をいただけサービス設計の参考になりました。

ご自身の経験がない領域（講師への研修や専門科目以外の学習指導）へも積極的に、真摯に取り組んでいただきました。実際の生徒様への指導のときの目の輝きは忘れられません。民間企業として学習サービスを提供する側としても、学校現場の先生方の普段の支えもあり、我々のサービスが成り立っているところを課員含め、あらためて再認識いたしました。

（株式会社　Ｚ会　祝部様）

今年度派遣いただいた知野匡伸先生には、コロナ禍で様々な制約がある中で、非常に熱心に、また献身的に業務に取り組んでいただきました。弊社の人事厚生部に所属され、前半は採用活動、後半は従業員の教育・研修をメインに取り組んでいただきました。

採用活動では、面接官も努めていただき、選考にも大きく関わられました。また弊社人事厚生部の主たる業務である従業員の教育・研修においては、教員としての資質・スペシャリティを活かして、新入社員フォローアップ研修（７月中旬から８月末迄）の既存カリキュラムの見直し・改善、新入社員への新たなアプローチを講師として実践され、弊社にとってかけがえのないレガシーを残していただきました。

また、保健体育の教員という視点から、弊社従業員の健康について、身体を動かす・ケアすることの重要性を明示され、それにともなう幾つかのご提案もいただいております。このご提案に際しては、静岡・清水本社勤務の従業員一人一人に直接知野先生がインタビューされ、その声を基にご提案されました。

上記のとおり、知野先生は一つ一つの業務・工程が非常に丁寧であり、なにより情熱をもって向き合っていらっしゃった印象が強く残っています。また、今経験している業務・場面で得たことを、教職に戻った際に如何に還元できるかを常に考えていらっしゃいました。まだお若いですが、強い信念・決意を持って研修に参加していただいたのだなと感じております。

知野先生には、人事厚生部員、お世話になった新入社員ともに感謝の気持ちしかございません。

（はごろもフーズ　株式会社　杉山様）

～受け入れてくださった企業の皆様、貴重な経験をありがとうございました～

民間企業等長期派遣型研修実施要綱

静岡県教育委員会

（目的）

第１条　この要綱は、教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な技術、技能、システム並びに組織運営及び人材育成のノウハウ等を学ぶことにより、教員の授業力、生徒指導力、教育業務遂行力、組織運営力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資するために、教育職員を長期にわたり民間企業等において研修させる派遣型研修（以下「研修」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

（研修期間）

第２条　研修期間は、原則として１年とする。ただし、研修先等の事情により、１か月以上１年未満とすることも可能とする。

（研修対象者）

第３条　研修対象者は、原則として以下の条件を満たす者とする。

(1) 市町（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第１項の指定都市を除き、同法第284条第22項の一部事務組合を含む。）立の小学校、中学校若しくは義務教育学校又は県立学校に勤務する教諭、養護教諭、栄養教諭又は実習助手（以下「教諭等」という。）

(2) 研修を実施する年度の４月１日において、45歳以下で静岡県内において前号の教諭等としての職務経験が５年以上の者

(3) 研修を実施する年度に、「中堅教諭等資質向上研修」又は「教員免許更新講習」の対象でない者

（研修先）

第４条　研修先は、研修の目的を達成するためにふさわしい民間企業等とする。

（研修生の決定等）

第５条　県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、研修対象者の中から研修生を決定し、所属長を通じて、研修対象者にその旨通知する。

（研修先及び研修期間の決定）

第６条　研修先及び研修期間については、研修生の特性等を考慮し、所属長と協議の上、教育長が決定する。

（研修生の身分等）

第７条　研修生の所属校は、派遣前の在籍校とする。

２　研修期間は、教育公務員特例法（昭和24年法律第１号）第22条第３項（教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第６号）第９条第２項の規定により準用する場合を含む。）の規定による長期研修のための出張扱いとする。

（研修生の服務等）

第８条　研修生は、研修期間中、研修先の服務規程に従い、研修に専念する。

２　研修生は、研修期間中に研修先において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（給与等の支給）

第９条　派遣期間中は、通常の給与のほか、静岡県職員の旅費に関する条例に基づく旅費を支給する。

（研修の報告）

第10条　研修生は、研修期間中、毎月、実績簿（様式第１号）及び月別報告書（様式第２号）を作成し、翌月の５日（週休日の場合は翌日以降の週休日でない日）までに所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

２　研修生は、研修終了日の翌月の20日までに、研修報告書（様式第３号）を所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

（災害に対する措置等）

第11条　研修中の災害及び研修先への通勤による災害については、県の公務上の災害又は通勤による災害として取り扱う。

（研修の中止等）

第12条　教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、研修を中止又は中断することができる。

(1) 研修生の研修実績が著しく不良である場合

(2) 研修命令に違反する行為、非行その他の理由により、研修生として適格性に欠けると認められる場合

(3) 研修生の心身の故障のため、研修の継続が困難になった場合

(4) 研修先を取り巻く状況の変化により、研修の継続が困難になった場合

(5) 研修先が重大な法令違反行為を行ったと認められる場合

(6) その他やむを得ない理由により、教育長が研修を中止又は中断する必要があると認めた場合

（協定の締結）

第13条　教育長は、研修に関する協定を研修先と締結するものとする。

（事務主管）

第14条　この要綱に定める研修に関する事務は、教育政策課において行うものとする。

（委任）

第15条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

附　則

この要綱は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成31年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、令和４年４月１日から施行する。

令和３年度　民間企業等長期派遣型研修報告書

発　行　令和４年10月

発行者　静岡県教育委員会

編　集　教育政策課

〒420-8601　静岡市葵区追手町９番６号

Tel　054-221-3133

Shizuoka Prefecture